

院外茶話

vol.73 平成23年6月1日

自転車は高級品だった
何年も貯金をして
買ったけれど
今は誰も振り返らない

自転車泥棒

我が家の前に自転車が止まっていた。20インチくらいの小さな車輪だけど、変速機もついた立派な自転車で、新品ならば3万円は下らないだろう。

束の間の駐輪に見えたけれど、鍵がかかったまま、2週間がたっても動く気配がない。近所の人が道の掃除をする度に少し置場が変わって、電柱の右に行ったり左に来たり。時には向かいの店舗の敷地に入っていることもあった。



放置をされた自転車のハンドルは逆向き。

なぜこの自転車はいつまでもここにあるのか。持ち主が置き忘れたか。盗まれた自転車が放置をされたか。いずれにしても、雨ざらしになって、少しずつ汚れていく自転車を見ていると気分が悪い。

ところがある日、この自転車が我が家の敷地に置いてあって、気分だけの問題ではなくなってしまった。交番に知らせれば、持ち主に連絡がついて一件落着と思ったが、ことはそう簡単ではない。

盗難届が出ていれば、警察の管轄で解決す

る。しかし届がない場合、公道に置いてあったら行政の管轄で、この場合は目黒区。私有地であれば、個人の管轄になる。

その個人である私には解決のしようがないので、自転車を数メートルほど移動して、元の公道に戻ってもらった。すると、今度はハンドルに「放置禁止」という紙が貼られたけど、やはり自転車はそのまま。

安易に盗まれる一方で、一旦置き去りにされると、引き取り手がみつからない自転車が不思議。

60年も前になるが、第二次世界大戦後のイタリアを舞台にした「自転車泥棒」という映画があった。「鉄道員」や「エデンの東」に先駆けること数年、大戦直後の困窮したイタリア社会を描いた名作である。

6歳になる子供を抱えて2年もの間、職につけなかった主人公が、運よくポスター貼りの仕事にありつくことになった。



映画、自転車泥棒より。

ところが仕事の初日、ポスターを貼っているすきに、商売道具の自転車を盗まれるという事件が起きる。このままでは仕事を失う主人公が、今度は道端の自転車を盗もうとするが、居合わせた人々に取り押さえられる。

一部始終を見ていた子供の表情に、貧困の悲しさが映し出されていた。

生きるために自転車を盗んだ時代があった。今は酔った勢いで、駅前にある他人の自転車に乗って帰り、翌日、また駅の近くに自転車を乗り捨てる。

私の自転車も代々盗難にあって、数週間もたつて発見されると、警察から電話がかかる。その都度引き取りに行ったけれど、壊された自転車を処分するのが、またひと仕事だった。

なぜ、自転車はこんなに簡単に盗まれるのか。それは世間の目がなくなったから。人の関係が希薄になって、例え、怪しげな仕草を目にしても、めったなことでは他人のする事に口を出さない。

実際、長らく自由が丘に暮らしているが、数軒先に住んでいる人を私は知らない。

近くで窃盗事件が起きた。コンビニの隣に洋品店があって、ある日、窃盗団が店の前にトラックを止めてウインドウを壊し、商品を根こそぎ盗んでいったのである。大きな音もしたはずだけど、コンビニの店員は何かの工事と思いこんで、様子を見に行くこともなかった。

そんな犯罪を防止するために、今は方々に監視カメラができて、24時間態勢で見張りを続けている。



妻が毎朝、挨拶をする監視カメラです。

おかげで妻は、家の前の掃除をするにも化粧をするようになったし、毎朝カメラに向かって会釈をする。顔のしみまで写らないと言うのだが、ほんの少しの外出のためにも、化粧の手間と経費がかさんでいけない。

こういう近代装備は、もちろん犯罪の防止に大きな力を発揮する。実際、このカメラが設置されてから、自転車は盗まれなくなった。しかし、監視カメラに守られた安全には、どうも馴染めない。

番犬を飼って、近所に声をかけて安全を担保

した時代は終わった。それはわかっているのだけれど、まだ、その感覚についていけない自分がいる。

隣の家に味噌や醤油を借りにいった時代。醤油を返すのが遅いとか、礼も言わないとか、煩わしいもめ事を聞いたこともある。

他人どうし、もめごともしこさず、プライバシーを守って、助け合って。それは理想的な姿だけど、絆なんていう言葉は、簡単に口にできるものではない。大津波でもない限り。

ならば、せめて顔だけでも見知って、話ができるようにしておきたい。

そう思って私はなるべく、歩いて行ける場所で暮らす。本当はこんなきれいごとばかりでなく、飲んでしまうと帰りの電車が億劫になったこともあるけれど。

でも買い物は地元でしょう。帽子もパンツもデジカメも。できるだけメイド・イン・ジャパンにこだわって。

幸い、自由が丘は充実した街で、電車に乗らなくても大概のものは手に入る。映画館や温泉はないけれど、商店街とスーパーがあれば、暮らしに困ることはない。

飲食店も山のようにあって、自由が丘デパートの階段を上がれば、イタリアにトルコ、ハンガリー、ネパールからベトナムにいたるまで、各国の料理が味わえる。

もちろん中華も和食もあって、全部食べれば世界旅行の気分にならないかな。



自由が丘デパートの店舗案内。
ここだけで8カ国の料理が味わえます。

現役を引退したら、田舎で暮らしたいと思ったこともあったけど、知らない土地が一朝一夕、故郷に変わるわけでもない。

年をとって自転車にも乗れなくなった時には、上手に迷惑をかけながら、縁のあるこの街で暮らしたい。